

インターバンクの声（2017 年 3 月 24 日）

前日の安値が更新されたドル円は、昨夜のニューヨーク市場でも何とか 110 円台中盤を割り込まずに耐えているが、どうも 110 円割れがゆっくり近づいているような雰囲気だ。米長期金利が軟調になっている上に、いつの間にか原油価格も 40ドル台後半が定位置になり始めている。

そこにトランプ大統領の政策運営に懸念が広がり始めていることが重なっては投資意欲も失せてくる。それでも昨夜は、トランプ大統領が進めている医療保険制度改革法（オバマケア）見直し案が何とか可決されるのではとの観測に、下げて始まっていた NY ダウがプラス圏に大きく浮上するなど、良い材料があれば株価や為替が反発する力は残っているようだ。

ただ昨夜の採決が翌日に持ち越されることが分かったと、相場は元に戻ってしまった。ドル円の反発も 111 円 30 銭台までに留まっており、今夜の米下院での採決が否決されれば、経済政策の調整なども停滞するとの懸念が広がってドルも売られそうだ。折しも来週は本邦の年度末で、面倒な時期に相場の大きな転換点を迎える可能性もありそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。